

「海洋・宇宙連携の今後の在り方」

に関する特別セミナー

第1部:基調講演「日米欧における海洋・宇宙連携方策について」

海洋立国としての海洋・宇宙連携

……………古庄幸一・総合海洋政策本部参与、第26代海上幕僚長

(要旨)

- 1 海の向こうは見えないが宇宙からは見える。宇宙から地球を見る意義
 - ・オリンピックの閉会式を見ていた時「ブラジルとお月様はどちらが遠いの？」と孫から質問（小学2年生の感覚）。
 - ・37年前の体験談。太平洋艦隊司令官表敬時に見せられた練習艦隊航跡図。（海軍としてのホームランド・セキュリティ）。

- 2 「海洋立国」とは
 - ・国連海洋法条約をまもっている国。
 - ・国家意思で造船、海運、海洋開発等で世界の経済活動に寄与し、かつ環境保全に寄与している国。
 - ・海軍、コーストガードを以て海洋の安全に寄与している国。

- 3 今後の海洋・宇宙の連携の在り方
 - ・海洋・宇宙政策を統合一本化した組織の下で官、民、軍一体となって人材を育成し、予算の無駄を無くし、海洋政策を進めなければ、真の海洋立国たり得ない。
 - ・次期の海洋、宇宙基本計画には安全保障の項目を入れて海洋の安全を確保し寄与すると明記。